

乳幼児歯みがき「注意」

転倒して口にけが、のど突く事故

乳幼児の歯みがきが意外と危険って知ってましたか？
きちんと1人で歯みがきできることは成長の証し。でも歯ブラシで口の中を傷つけてしまう事故が少なくないのです。子どもから目を離さないことが一番大事ですが、安全設計の専用歯ブラシも売っています。

国立成育医療研究センター（東京都世田谷区）に、2歳の女の子が車で運び込まれた。昨年10月のことだ。
歯みがき中に転び、歯ブラシでのどを突いた。呼吸が危おまれたため、人工呼吸器をつけて、6日間様子をみる必要があった。兄がふざけて妹にスライディングをしたのが転倒の原因だった。一度は出血も止まったように見えたが、2時間後に泣き出した。首が腫れていたため、あわてて病院に駆け込んだという。

同センターでは、乳幼児を中心に年間約20人が「歯ブラシ外傷」で受診する。刺さった歯ブラシを抜こうとして折れてしまったり、手術したケースも。救急診療科の伊藤友弥医師は「首には太い血管や脊髄

が集中し、大げかにつながる恐れもある」と指摘する。消費庁によると、協力関係にある全国13の病院で、今年1月末までの約2年間に、1〜6歳児の歯みがき中の事故が49件起きていた。入院が必要なのは10件。年齢別では1歳児が23件と最も多かった。「歩くなどして転倒」が31件を占め、「人や物にぶつかる」が8件、「踏み合などから転落」が6件あった。

消費庁は2月、0〜3歳児を持つ保護者1200人に子どもの歯みがきについてアンケートを実施。86%の人が「歯ブラシを口にくわえたり、手に持ったりしたまま歩き回ることがある」と答えた。だが一方で、歯ブラシによる事故について「聞いたこ

とがない」と答えた人が68%にのぼった。「歯みがき中は歩き回らないように注意し、不安定な場所での歯みがきも避けてほしい」と同庁の担当者も呼びかける。

歯ブラシは先端がとがっていないが、力がかかれは、口の中に刺さる恐れもある。東京大学医学部付属病院救命救急センター長の中島勸医師は「口の中に棒状のものを入れることは危険だ」と認識を持ってほしい」と話す。

とはいえ歯みがきを親がやってあげればいいわけでもない。日本小児歯科学会によると、歯みがきには、「食べたらみがく」習慣を身につける▽手や指を使った運動を学ぶ▽顔や口の位置を覚える、などの意味があるという。

歯みがき中の事故のパターンは？

ぎょうだいや親がぶつかってくる
歩いたり、走ったりして物や人にぶつかる
自分で誤ってのどを刺す

不明・その他 11
歩いたり、走ったりして 71%
歩いたり、走ったりして 5
歩いたり、走ったりして 5
歩いたり、走ったりして 8

転倒の原因上位3位は？

- 1 布団
- 2 ソファ
- 3 ベッド

産業技術総合研究所と東京消防庁が、2007年からの5年間に東京都内で起きた子どもの歯みがき中の事故225件を分析

グラフィック・三原弘亮 / The Asahi Shimbun

安全に配慮した専用歯ブラシも

安全に配慮した歯ブラシも普及しつつある。ベビー用品販売の「赤ちゃん本舗」（本社・大阪市）では、「のど突き」を防ぐプレートが付いたものなど乳幼児用の特殊な歯ブラシの売り上げが、この7年で2・4倍に伸びた。

1個1千円の「高級品」も登場した。ベビー用品メーカーの「和光堂」（東京都）が昨年発売した。直径約4センチのプレートが持ち手と一体になり、のどの奥に届かない。ブラシを360度付けてみがきやすさにも配慮した。すでに約3万本が売れたという。

（吉川一樹、小坪遊）